

越前と明智光秀

—“伝承”をたどる—

明智光秀の前半生は多くの謎に包まれています。

『明智軍記』には、光秀が越前にいたとする記述がありますが、同書は「ごびゅうじゅうまん誤謬充満の俗書」とも評される軍記物語であり、記載をそのまま鵜呑みにすることはできません。

それでも近年の研究により、光秀の越前時代—
しょうねんじ称念寺門前に10年間いたこと、「えっしゅうあさくらけのくすり越州朝倉家之薬」の
(生蘇)「セキソ散」の調合法を習得していたこと—が
信頼できる史料から明らかにされています。

本テーマ展で扱うのは、明智光秀について書かれた越前の地誌と福井藩士の由緒書およびそれらに関連した創作物(よみほん読本や浮世絵)です。

ここでは、江戸時代の越前の人びとが伝えていた、いくらかの史実を含むかもしれない4つの“伝承”をご紹介します。



明智光秀画像[伝]

東京大学史料編纂所所蔵模写